

# 会 議 録

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	子育て未来課
会議名 (審議会等名)	令和5年度第1回嬉野市子ども・子育て会議		
開催日時	令和5年12月22日(金) 14:00～15:40		
開催場所	嬉野市役所 塩田庁舎 3階 3-2会議室		
傍聴の可否	(可) ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可 の場合はその理由			
出席者	委員	久野博美委員、宮崎杏美委員、西田希委員、小佐々太郎委員、秋月久子委員、兵働朋美委員、熊容子委員、富永良暢委員、原田勝彦委員、辻田律子委員、中島恵美子委員、武藤敏委員、野口幸子委員、小池和彦委員、佐熊朋子委員	
	事務局	子育て未来課課長、同副課長	
	その他	グローバル・ライフ・サポート(株)	
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委嘱状の交付</li> <li>3. 委員の紹介</li> <li>4. 会長の選任 会長に小佐々委員、副会長に原田委員を選任</li> <li>5. 協議事項 第3期嬉野市子ども・子育て支援事業計画策定について</li> <li>6. 閉会</li> </ol>		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和5年度第1回嬉野市子ども・子育て会議 次第</li> <li>・ 嬉野市子ども・子育て会議委員名簿</li> <li>・ 第1回協議資料</li> </ul>		
審議等の内容	別紙のとおり		

# 審 議 等 の 内 容

(嬉野市審議会等の公開に関する要綱第9条関係)

		所管課	子育て未来課
議 題	5. 協議事項 第3期嬉野市子ども・子育て支援事業計画策定について		
内 容	第3期嬉野市子ども・子育て支援事業計画策定方針、策定方法（アンケート調査の実施）、策定スケジュールについて事務局より説明、質疑応答		
審議経過	事務局	（事務局・グローバル・ライフ・サポートより説明）	
	会長	事務局より説明があつたが、質問や意見はないか。	
	委員	ニーズ調査の対象者がそれぞれ 1,000 人となっているが、実際に該当する 1,000 人は全体の何割くらいになるのか。	
	事務局	ニーズ調査の対象者については 1,000 人としているが、子どもの数が少なくなっており、今年度4月現在で未就学児は全部で 1,100 人程、小学生は 1,300 人程となっている。対象は一世帯について対象の子どもは一人としているため、きょうだい児を除くと 1,000 人には達しない。全体から 1,000 人を抽出するのではなく、全ての子どもがいる世帯が対象となると考えられる。	
	会長	ウェブや調査票でアンケートを行うとのことだが、回収率について基準があるのか。	
	事務局	前回調査したニーズ調査では、回収率は就学前児童が 56.2%、小学生児童は 79.8%となっており、回収率は高くなっている。1,000 通の調査に対して 350 通の回答があれば信頼性のある調査といえる。	
	会長	個人的には、若者計画の調査はQRコードがついており、回答しやすいのではないかと思う。	
	委員	子どもの貧困調査については、ウェブでの回答がないが、なぜか。	
事務局	ウェブでの調査も検討したが、子どもと保護者それぞれに調査を行		

		い、同じ世帯であることを紐づける必要がある。ウェブで回答する場合には、調査票に保護者と子どもに共通の番号をふり、その番号を入力する必要がある。番号を気にする人がいるかもしれないため、紙での調査としたが、ウェブで行うことも可能である。
委員		対象者が 1,000 人、500 人となっている根拠があるのか。小学校の 1 学年では足りなかったため、2 学年を対象としたようだが、何か統計学上の根拠があるのか。
事務局		母数については、人口・世帯数の全体から抽出し、回収率を想定して必要な配布数を出すことはできる。ニーズ調査は保護者全員、子どもの貧困調査は 500 人と検討していたが、実際は 5 年生と 6 年生を合わせた数になる。子どもの貧困に関する調査は、小学校の低学年には内容が深すぎることに、国では小学 5 年生と中学 2 年生で実態調査をしているため、比較できるように対象の年代を提案している。
委員		学年の根拠はわかったが、必要な対象者数についての理由はあるのか。
事務局		調査対象者の数について、対象者が 1,000 人いたら 1,000 人に調査することもあるが、そこから絞って、信頼度から回収率を算出することはできる。今回はほぼ全数調査を検討しているため、500 人は全体の数となる。
委員		調査は、負担がないこと、子どもたちの声を反映するものであればよいと思う。
委員		子どもの貧困に関する調査項目の一覧があるが、小学 5 年生では難しい内容であったり、漢字を使っているように思う。 実際にアンケートをとって、子どもたちの実態、本音に近づく内容になっているのか検討する必要があるのではないかと。設問数が多くなると、子ども達の性格上、実態を反映した十分な回答が得られないのではないかと。
事務局		設問の内容を資料として示しているため、実際の調査票では学年に応じたわかりやすい表現とする。 子どもがどこまで本当のことを書いているか判断するのは難しいが、必要とされる調査項目を設定しており、必要な数であると考えている。 小学 5 年生向けの調査票では、小学 5 年生がわかる表現で尋ねてお

	<p>り、具体的には、居場所について（問 22）の設問では、「次の居場所は今のあなたにとって、ほっとできる場所、安心できる場所になっていますか。」とお尋ねし、自分の部屋、家庭、学校のそれぞれにおいて、そう思うか、思わないかを回答してもらう。</p> <p>また、子ども・若者計画の部分の設問については、国が作っている調査票をベースに調査項目を選定している。</p>
委員	<p>実態調査をしないと、子ども達の現状がつかめないということはわかるが、実態を把握するときの信頼性、どれだけ実態に近づくのかが一番大切である。</p> <p>子ども達の実態を調べるのは難しいと思う。国と同様の調査票とするのではなく、どのような言葉で尋ねた方が良いのか、実態を把握する方法についてもアンケートで回答するだけではなく、他の方法を検討することも必要なのではないか。</p>
事務局	<p>子どもの実態を把握するのは今回の計画に必要なことであるため、全体の状況についてはアンケート調査を行うが、子ども達の意見を集める方法として、子どもや若い世代に呼びかけグループインタビューを行う等の方法も考えられる。</p>
委員	<p>調査票の項目について、具体的にどのような調査票になっているのか見てみないとわからない。質問数も 50 近くあるので、途中で回答を辞めてしまうことも考えられるので、飽きさせないような工夫も必要だと思う。</p>
委員	<p>子ども・若者計画に関する調査の対象が高校生世代から 39 歳の市民となっているが、未就学児・小学生児童の保護者と重複する可能性があるのか。内容は異なっているので、2つの調査に回答してもよいと思う。</p> <p>また、貧困に関する調査について、データをとるためにアンケートは必要だと思う。アンケートでは低学年に難しい内容かもしれないが、逆に純粋な子ども達の意見が聞けるかもしれないので、別の形での把握ができればよいと思う。来年度には関係団体のヒアリングが予定されているので、子育て支援センター等の子ども達と関わる機関へのヒアリングも検討してもらえればと思う。</p>
事務局	<p>対象者は重複しないように抽出したい。</p>
委員	<p>アンケートは1月に実施と回収を予定しているとのことだが、アンケートの内容について委員で検討すること機会や、どのような内容</p>

		で実施するのか知る機会はないのか。
	事務局	集計・分析等を考え、1月の中旬を予定している。 会議の開催は難しいが、事務局が作成した調査票について郵送やメール等で示し、意見等を集約したい。
	会長	保護者に関する調査項目と子ども・若者計画に関する調査項目は重複していないため、同じ世代であるのに子どもがいない人に偏ってしまうのではないか。
	委員	ウェブでも回答できるということだが、回答は全て必須になるか。紙の調査票では、回答しづらい設問については無回答できるが、ウェブではどうなのか。また、質問内容の他に、回答の選択肢についても検討が必要ではないか。選択肢が5段階であれば、小学5年生であっても自分の気持ちがわかりにくく、正確な回答が得られるのか疑問である。 性別に関する回答について、配慮があるのか。
	事務局	回答しないと次に進めない場合と無回答でも次の設問に進む作り方もできる。今回のニーズ調査は、保護者の保育等の利用意向を尋ねており、働き方とニーズを組み合わせて保育料の算出等を行うため、全て回答してもらう必要がある。子どもの貧困に関する調査については、具体的に検討していきたい。 性別については、必要ない場合には尋ねないようにしたいが、男女の集計が必要な場合には属性を尋ねるが、「答えたくない」の選択肢も用意する。
	委員	ニーズ調査の中で、病気の際の対応「病児保育を利用するか」の設問があるが、無回答をなくすためには、病児保育の説明が必要ではないか。病児保育・病後児保育等の言葉自体を知らないと、「わからないから」と無回答になるのではないか。 事業についての設問があるが、知らないと回答しないかもしれない。このアンケートを機会に嬉野市の取組をお知らせする方法はないだろうか。皆がわかりやすいようにしてもらえればと思う。
	事務局	利用していても、事業名で書かれていたら知らずに「使っていない」と回答されることも考えられる。質問の中に注釈として事業の説明を入れることも考えられる。また、5年前の調査時は、アンケート調査票に同封して市の子育て事業の内容を記載したリーフレットを送った。方法については検討したい。

	<p>委員</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>委員一同</p>	<p>年間2万人が自殺しており、50万人の人が自殺をしたいと思ったことがあるとの数字が出ていた。自殺を止めるためには、相談することがとても大事なことだと思う。子どもの貧困に関する調査項目の中に、「相談するとしたら誰に相談するか」等の具体的な設問を入れるのはいかがか。</p> <p>相談先、困ったときにどこに相談しているか等の設問の追加を検討したい。</p> <p>貧困線（可処分所得の低い順から並べて中央の金額）とあるが、これは全体の半分は貧困ということなのか。</p> <p>可処分所得から貧困線を算出し、その貧困線から低い場合に貧困であると定義する方法がある。これは全国的にとられている方法であるが、アンケートの中の生活状況の設問と組み合わせて、実態の確認をする。</p> <p>他に意見等はないか。</p> <p>なし。</p>
<p>その他</p>	<p>事務局から、今後の会議のスケジュールについて説明（今年度は3月に開催予定）</p>	